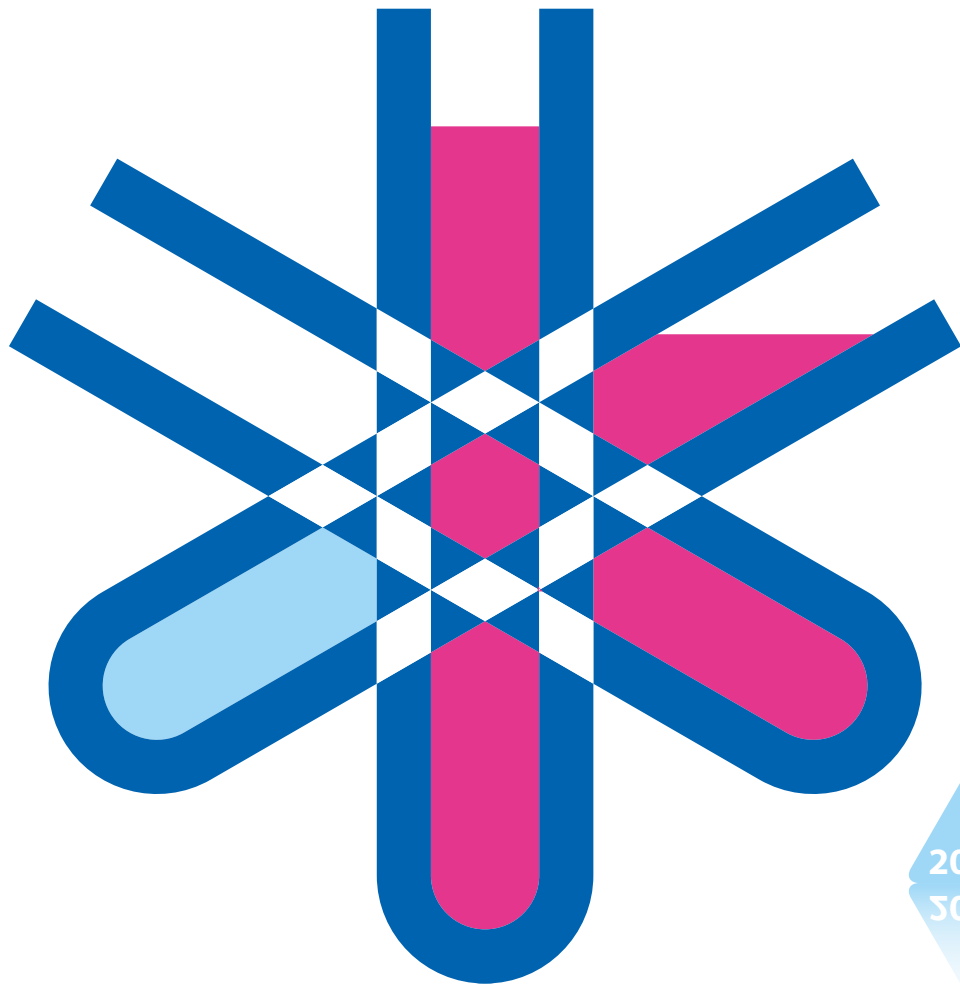


横査情報月報



10
10

横浜市衛生研究所

令和8年10月号 目次

【検査結果】

夏期食品収去検査結果（令和8年度）	1
農産物の残留農薬検査結果（令和8年7月～8月）	4

【情報提供】

衛生研究所ウェブページ情報（令和8年9月）	6
-----------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和8年9月）	7
----------------------------	---

* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

夏期食品収去検査結果（令和8年度）

夏期食品等一斉点検は、厚生労働省通知「令和8年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。

本市においても令和8年6月1日から8月31日までを重点監視期間と定め、一斉点検を行いました。

期間内に医療局食品衛生課と各区福祉保健センターが収去し、搬入された検体について、当所が行った検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

菓子類、清涼飲料水、かん詰・びん詰食品等の食品115検体（輸入品100検体、国産品15検体）について、保存料、着色料、甘味料など2,551項目の検査を実施しました（表1）。

検査を実施した13検体については、原材料由来と思われる酸化防止剤や保存料を検出した検体、甘味料や品質保持剤使用の表示が記載されているが不検出となった検体等の事例がありました。これらについては、収去を担当した区福祉保健センター等が輸入者等を所管する自治体に調査を依頼しています。

表1 食品添加物検査

令和8年6～8月

食品分類	検査項目									
	検体数	項目数	保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	品質保持剤	発色剤	漂白剤	小麦粉処理剤
肉卵類及びその加工品	5	90	15	68	0	2	0	5	0	0
穀類及びその加工品	4	40	12	17	0	9	1	0	0	1
野菜類・果実及びその加工品	4	103	18	68	16	1	0	0	0	0
菓子類	38	843	90	544	136	73	0	0	0	0
清涼飲料水	26	800	253	442	104	1	0	0	0	0
酒精飲料	11	190	61	102	16	11	0	0	0	0
かん詰・びん詰食品	17	268	42	153	36	35	0	0	2	0
その他の食品	10	217	44	124	32	17	0	0	0	0
合 計	115	2,551	535	1,518	340	149	1	5	2	1

【 検査研究課 理化学(添加物含有物)担当 】

2 細菌検査

規格基準検査の内訳は、魚介類9検体、冷凍食品4検体、肉卵類及びその加工品6検体、乳製品2検体、清涼飲料水13検体、その他の食品13検体、計47検体82項目でした。検査の結果、規格基準^{*1}違反はありませんでした(表2)。

また、細菌の成分規格のない菓子類6検体、その他の食品(そうざい類)20検体は、旧衛生規範^{*2}の項目について検査を実施しました。ふきとり24検体は独自項目について検査を実施しました(表3)。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

^{*2} 旧衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。食品衛生法の改正に伴い令和3年6月1日に廃止されました。横浜市では現在、食品営業者への衛生指導のための参考値として、衛生規範で示された数値を使用しています。

表2 規格基準検査結果

令和8年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反 検体数
魚介類			
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	9	9	0
冷凍食品			
無加熱摂取冷凍食品	2	4	0
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1	2	0
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	1	2	0
肉卵類及びその加工品			
加熱食肉製品(加熱後包装)	2	6	0
非加熱食肉製品	4	16	0
乳製品			
ナチュラルチーズ(ソフト及びセミハードに限る)	2	2	0
清涼飲料水			
清涼飲料水	11	11	0
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌有)	1	1	0
ミネラルウォーター(殺菌又は除菌無)	1	3	0
その他の食品			
容器包装詰加圧加熱殺菌食品	13	26	0
合 計	47	82	0

表3 その他の細菌検査結果

令和8年6～8月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数
菓子類		
洋生菓子	4	12
和菓子	2	6
その他の食品		
そうざい類(加熱処理品)	4	21
そうざい類(未加熱処理品)	16	48
ふきとり		
ふきとり(器具等)	24	38
合 計	50	125

【 検査研究課 微生物(細菌)担当 】

農産物の残留農薬検査結果（令和8年7月～8月）

食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、消費者庁は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、令和8年7月～8月に医療局食品専門監視班及び各区福祉保健センターが収去した市内産農産物34検体の検査結果を報告します(表1)。

7月にきゅうり5検体、なす4検体、トマト3検体、えだまめ、こまつな、とうもろこし、にんじん及びばれいしょ各2検体、いんげん及びピーマン各1検体の計24検体、8月になす8検体、きゅうり及びにんじん各1検体の計10検体について検査を行いました。

その結果、トマト3検体、きゅうり及びなす各2検体、こまつな及びにんじん各1検体から延べ14項目の農薬が検出されましたが、残留農薬の規格基準値を超えるものではありませんでした。

検査項目及び検出限界については表2のとおりです。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

令和8年7～8月

農産物	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
いんげん	1	0			
えだまめ	2	0			
きゅうり	6	2	クロチアニジン	0.09	2
			クロルフェナピル	0.01	0.5
こまつな	2	1	シアゾファミド	0.01	15
			ジノテフラン	0.02	10
とうもろこし	2	0			
トマト	3	3	クロチアニジン	0.04	3
			クロルフェナピル	0.02	1
			ジノテフラン	0.44	2
			チアメトキサム	0.03	2
			クロルフェナピル	0.06	1
			ペルメトリン	0.05	4
			クロチアニジン	0.04	3
なす	12	2	クロチアニジン	0.02	1
			ジノテフラン	0.01	2
にんじん	3	1	プロチオホス	0.05	0.2
ばれいしょ	2	0			
ピーマン	1	0			

注) 中括弧({})は同一検体から検出されたもの

表2 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					
		A	B	C	D	E	F			A	B	C	D	E	F
BHC(α , β , γ 及び δ の和)	0.005	○	—	○	—	—	○	インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*)	0.005	○	○	○	○	—	○	エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	—	○	エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	—	○	エボキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	○	—	エンドスルファン(α 及び β の和)	0.005	○	○	○	○	○	○
アセフェート	0.01	○	○	○	○	○	○	エンドリン	0.005	○	—	—	—	—	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	オキサミル	0.01	○	○	○	○	○	○
アラクロール	0.01	○	○	○	○	○	○	カルバリル	0.01	○	○	○	○	○	○
アルドリノ及びディルドリン	0.005	○	—	○	○	○	○	カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	○	—
イソキサチオン	0.01	—	○	○	○	—	—	クミルロン	0.01	○	○	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	○	○

表2 (続き)農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物						農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物					
		A	B	C	D	E	F			A	B	C	D	E	F
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	○	—	フィプロニル	0.002	○	○	○	○	○	○
クロマフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○	フェナリモル	0.01	○	○	○	○	○	○
クロルピリホス	0.01	○	○	○	○	○	○	フェニトロチオン	0.01	○	○	○	○	○	○
クロルピリホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○
クロルフェナピル	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	○	○
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	○	○
クロクシロン	0.01	○	○	○	○	○	○	フェントエート	0.01	○	○	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	○	○
シアノフェンホス	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	○	○
シアノホス	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	—	○
ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○	フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
ジコホール	0.01	○	○	○	○	○	○	フサライド	0.01	○	○	○	○	○	○
ジノテフラン	0.01	○	○	○	○	○	○	ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	○	○
シハロトリン	0.01	○	○	○	○	—	○	ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	○	○
ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	フルジオキシニル	0.01	○	○	○	○	○	○
シフルトリン	0.01	○	○	○	○	—	○	フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	○	○
シフルフェナミド	0.01	○	○	○	○	○	○	フルトラニル	0.01	○	○	○	○	○	—
シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○	—	○
シペルメトリン	0.01	○	○	○	○	—	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○	○	○
ジメトエート	0.01	○	○	○	○	—	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○	○	○
ジメトモルフ	0.01	○	○	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○	○	○
シラフルオフェン	0.01	○	○	○	○	○	○	プロチオホス	0.01	○	○	○	○	○	○
ダイアジノン	0.01	○	○	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○	○	—
ダイムロン	0.01	○	○	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
チアクロプリド	0.01	○	○	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○	○	○
チアメトキサム	0.01	○	○	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○	○	○
テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
テブコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	○	—	○	—	○	○
テブフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○	○	○
テブフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○
テフルトリン	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンシクロン	0.01	○	○	○	○	○	○
トリアゾホス	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○	○	○
トリコナゾール	0.01	○	○	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○	○	○
トリフルラリン	0.01	○	—	○	—	○	○	ボスカリド	0.01	○	○	○	○	○	○
トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○	○	○
トルクロホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○	—	○
トルフェンピラド	0.01	○	○	○	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○	○	○
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	○	○	メタミドホス	0.01	—	○	○	○	○	—
パラチオン	0.01	○	○	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○	—	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	○	○	メラクロール	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	○	○	リニュロン	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	○	○	リンデン(γ-BHC)	0.005	○	○	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	ルフェヌロン	0.01	○	○	○	○	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○	—	○
ファミキサドン	0.01	○	○	○	○	○	—								

農産物の種類 A:いんげん、こまつな、トマト、にんじん、ピーマン B:なす C:ばれいしょ
D:きゅうり E:とうもろこし F:えだまめ

○:実施、—:実施せず

*DDTは p,p' -DDE、 p,p' -DDD、 o,p' -DDT及び p,p' -DDTの和

【 検査研究課 理化学(残留物汚染物)担当 】

衛生研究所ウェブページ情報（令和8年9月）

横浜市衛生研究所ウェブページは、平成10年3月に所独自のウェブサイトとして開設されました。現在は、本市ウェブサイト統合され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。今回は、当ウェブページにおける令和8年9月の追加・更新記事について報告します。

1 追加・更新記事

令和8年9月に追加・更新した主な記事は、4件でした。

掲載月日	内容
9月14日	蚊媒介感染症のウイルス検査結果(2026年9月14日)
9月15日	感染症に気をつけよう 9月号
9月16日	インフルエンザ流行情報
9月25日	蚊媒介感染症のウイルス検査結果(2026年9月25日)

2 記事紹介

横浜メディカルダッシュボード

<https://iryo-dashboard.city.yokohama.lg.jp/>

横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/byogentai/infc-kabaikai.html>

感染症に気をつけよう

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shimin/kiwotukekyou.html>

インフルエンザ流行情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/rinji/rinji.html>

ソーシャルメディア（インスタグラム）

https://www.instagram.com/eiken_yokohama_official

【 感染症・疫学情報課 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年9月)

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状態が続いています。
- インフルエンザの患者報告数がさらに増加し、昨年より1か月半早く注意報発令基準となっています。
- 新型コロナウイルス感染症の患者報告数も増加傾向です。

◇ 全数把握の対象 <2026年8月24日～2026年9月13日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	15件	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2件
腸チフス	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
A型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4件
エキノコックス症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	1件
エムボックス	1件	梅毒	14件
マラリア	1件	播種性クリプトコックス症	1件
レジオネラ症	4件	百日咳	3件
ウイルス性肝炎	1件		

- 腸管出血性大腸菌感染症:**10歳代～60歳代で、O血清群はO157が7件、O111が1件、O103が4件、O55が1件、O91が1件、不明が1件です。無症状病原体保有者は6件です。感染経路等は経口感染と推定される報告が5件、経口・接触感染と推定される報告が1件、不明が9件です。
- 腸チフス:**10歳未満で、感染経路は経口感染と推定されます。
- E型肝炎:**50歳代と70歳代で、無症状病原体保有者は1件です。感染経路は経口感染と推定される報告が1件、輸血からと推定される報告が1件です。
- A型肝炎:**20歳代と30歳代で、感染経路等は経口感染と推定される報告が1件、不明が1件です。2件ともワクチン接種歴は不明です。
- エキノコックス症:**30歳代で病型は単包条虫です。感染経路は動物からの感染と推定されます。
- エムボックス:**40歳代で、感染経路等は接触感染と推定されます。
- マラリア:**10歳代で、病型は熱帯熱です。感染経路は蚊からの感染と推定されます。
- レジオネラ症:**60歳代～90歳代で、病型はすべて肺炎型です。感染経路等は水系感染と推定される報告が2件、不明が2件です。
- ウイルス性肝炎:**50歳代で、病型はB型です。感染経路等は不明、ワクチン接種歴はありません。
- カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症:**いずれも70歳代で、感染経路等は院内感染と推定される報告が1件、不明が1件です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:**40歳代で、血清型はG群です。感染経路等は不明です。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む):**すべて20歳代で、病型は急性HIV感染症が1件、無症状病原体保有者が2件です。感染経路等は性的接触(同性間1件、異性間1件)が2件、不明が1件です。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:**30歳代～90歳代で、感染経路等は接触感染と推定される報告が1件、不明が3件です。ワクチン接種歴は無しが1件、不明が3件です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:**80歳代で、感染経路等は不明です。ワクチン接種歴は不明です。
- 梅毒:**10歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期9件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、無症状病原体保有者が1件です。感染経路等は性的接触による感染と推定される報告が13件(すべて異性間)、不明の報告が1件です。
- 播種性クリプトコックス症:**80歳代で、感染経路等は免疫不全その他と推定されます。
- 百日咳:**10歳未満～20歳代で、感染経路等は家族内感染と推定される報告が1件、不明が2件です。ワクチン接種歴は4回が2件、不明が1件です。

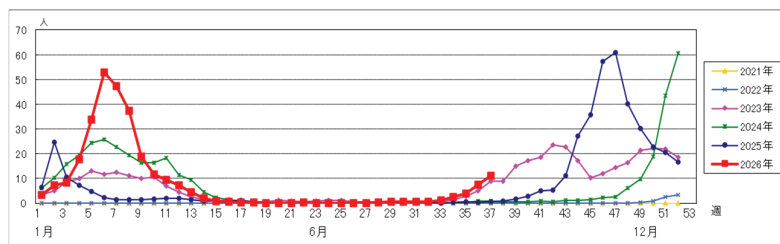
◇ 定点把握の対象

※ 2025 年第 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降、小児科定点は 94→51、
内科定点は 59→39 医療機関に変更されました。

報告週対応表	
2026年第35週	8月24日～8月30日
第36週	8月31日～9月 6日
第37週	9月 7日～9月13日

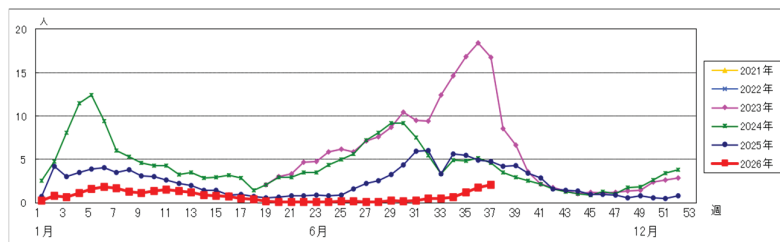
1 インフルエンザ

2026 年第 33 週(8 月 10 日～8 月 16 日)に 1.17 となり、流行期入りの目安となる 1.00 を超えました。その後も報告数は増加し、第 37 週は注意報発令基準となる 10.00 を超え、11.06 となりました。年齢層別にみると、7 割以上が学齢期までの患者で占めています。



2 新型コロナウイルス感染症

2025 年は 10.0 を超えることはありませんでしたが、2026 年は第 35 週(8 月 24 日～8 月 30 日)より報告数が増え始めました。第 37 週は 2.05 となっており、幅広い年齢層で患者が報告されています。



3 性感染症(2026 年 8 月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:17件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:13件	女性: 1件	淋菌感染症	男性:11件	女性: 3件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週
細菌性髄膜炎	0.00	0.25	0.00
無菌性髄膜炎	0.50	0.50	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.50	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2026年8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
-------------------	-----	----------------	----

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症) 定点:5 か所、ARI 定点:4 か所、眼科定点:1 か所、基幹(病院) 定点:4 か所の計 14 か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI 定点と ARI 定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院) 定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026 年第 35 週～第 37 週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症) 定点 96 件、小児科定点 6 件、基幹定点 1 件、定点外医療機関からは 1 件でした。

10 月 5 日現在、表に示した各種ウイルスの総数 80 件(うち分離総数 17 件)が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026 年第 35 週～第 37 週)

診断名	検出・分離ウイルス	総数	うち分離数
ARI	インフルエンザウイルス A型	1	
	インフルエンザウイルス AH1pdm09	19	15
	SARS コロナウイルス 2 (新型コロナウイルス)	10	
	ライノウイルスまたはエンテロウイルス	13	
	ライノウイルス	9	
	RS ウイルス	6	
	ヒトメタニューモウイルス	5	
	パラインフルエンザウイルス 1型	2	
	パラインフルエンザウイルス 2型	1	1
	パラインフルエンザウイルス 3型	5	
	パラインフルエンザウイルス 4型	1	
	アデノウイルス 型未同定	1	
	コクサッキーウイルス A5型	1	
	コクサッキーウイルス A10型	1	
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス B4型	1	1
	ライノウイルス	1	
	パラインフルエンザウイルス 2型	1	
手足口病	ライノウイルスまたはエンテロウイルス	1	
高サイトカイン血症	パレコウイルス 3型	1	
合 計		80	17

【 検査研究課 微生物(ウイルス医動物) 担当 】

〈細菌検査〉

2026年第35週～第37週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症18件、腸チフス1件、細菌性赤痢1件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症3件、侵襲性インフルエンザ菌感染症2件、侵襲性髄膜炎菌感染症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症1件、淋菌感染症2件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」からA群溶血性レンサ球菌咽頭炎2件、「ARI定点」から3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026年第35週～第37週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等		
保健所		腸管出血性大腸菌感染症	18	O157:H7 VT1VT2 O157:H7 VT2 O157:H- VT1VT2 O103:H2 VT1 O145:H- VT2 O111:H- VT1VT2 O55:H12 VT1 Og183:H18 VT1	(5) (5) (2) (2) (1) (1) (1) (1)	
		腸チフス	1	Salmonella Typhi	(1)	
		細菌性赤痢	1	Shigella sonnei II 相	(1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	B群溶血性レンサ球菌 I b型	(1)	
		カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3	Enterobacter cloacae complex Klebsiella oxytoca	(2) (1)	
		侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	Haemophilus influenzae 型別不能	(2)	
		侵襲性髄膜炎菌感染症	1	Neisseria meningitidis 血清群B	(1)	
分離同定		項目	検体数	材料	同定、血清型	
保健所		レジオネラ症	1	気管内喀痰	レジオネラ属菌 培養 陰性	(1)
		淋菌感染症	2	咽頭ぬぐい液	淋菌遺伝子 陰性	(2)
小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等		
小児科定点	咽頭ぬぐい液	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	A群溶血性レンサ球菌 T25型		(2)
ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等		
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	A群溶血性レンサ球菌 培養陰性 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性 百日咳菌遺伝子 陰性 百日咳菌 培養陰性		(3) (3) (3) (3)

【 検査研究課 微生物(細菌)担当 】